別記様式第４号

平成 29 年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成 30 年 3 月 30 日

<table>
<tr><td>報　告　者</td><td>学科名</td><td>看護学科</td><td>職 名</td><td>助教</td><td>氏 名</td><td>網野　裕子</td></tr>
<tr><td>研 究 課 題</td><td colspan="6">注意欠如・多動性障害（AD/HD）特性をもつ母親の育児困難感とサポートニーズ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研 究 組 織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td colspan="2">所 属 ・ 職</td><td>専 門 分 野</td><td>役　割　分　担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>網野　裕子</td><td colspan="2">保健福祉学部看護学科：助教</td><td>小児看護学</td><td>代表者・連絡責任者・研究の実施・会計責任者</td></tr>
<tr><td>分担者</td><td>沖本　克子</td><td colspan="2">保健福祉学部看護学科・教授</td><td>小児看護学</td><td>研究の実施</td></tr>
<tr><td>研究実績
の概要</td><td colspan="6">【目的】AD/HD 特性をもつ母親へのサポートプログラムを作成するための基礎資料とするため、乳幼児の育児を行っている母親の育児困難やサポートニーズを調査すること

【対象】AD/HD 特性をもち、子育てを行っている母親
（診断を受けている、または疑いがある母親）

【方法】
１．成人の発達障害を診察している医療機関や当事者会に、対象者の紹介を依頼した。
２．紹介された対象者に文書と口頭で研究に関する説明を行い、同意が得られた２名へ、半構造化面接を行った。
３．インタビューは作成した面接ガイド（子どもが生まれてからの育児困難感、良かったサポート、あれば良いサポート）に基づいて行った。２名とも録音の許可が得られたため、ＩＣレコーダーで録音した。

【結果】
１．得られたインタビュー結果について、現在分析中である。
・診断を受けている対象者１名、疑いがある対象者が１名であった。
・AD/HD 特性によって育児で困ったことは、「何かを同時に行うのが苦手なため、家事と育児を一緒に行うことができない」「子どもの準備を見ることができず、その結果、子どもの忘れ物が多い」などであった。
・良かったサポートは、「支援センターで相談できたこと」であった。育児に対する不明点を聞くことができたり、愚痴を聞いてもらったりと、母親の精神的安寧につながっていた。
・あれば良いサポートは、そういった支援センターなど、「相談できる場所がもっと増えること」「支援センターに発達について詳しい人を配置すること」「もっと母子で外へ出ることができるような情報の伝達」などであった。

２．県内及び近県の、成人の発達障害を診察している医療機関・当事者会へ対象者（AD/HD 特性をもち、乳幼児の育児を行っている母親）の紹介を依頼したが、該当する者がいないことが多かった。今回対象とした母親のうち１名は、学童期の子どもの子育て中であるが、乳幼児期を振り返って回答してもらった。今後、対象を「乳幼児の育児を行っている母親」から「乳幼児期・学童期の子どもを子育て中の母親」にまで対象を広げて、研究を継続したい。</td></tr>
</table>